

令和6年度上越教育大学教育職員免許法認定講習に係る開講科目の授業概要

会場名： 上越教育大学

| No. | 開設科目名 | 科目の概要 |
|-----|---|---|
| 1 | 特別支援教育原論 (R6認定講習) | まず、戦前の内外における障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史的展開及びその社会的背景・理念・思想について講述する。続いて、我が国における戦後の特殊教育政策及び特殊教育から特別支援教育への転換の背景について説明し、現行の特別支援教育制度を構成している教育関係法規について解説する。その中には特別支援学校（旧盲学校、聾学校、養護学校）教育要領・学習指導要領の歴史的変遷及びその内容についての講述も含まれる。 |
| 2 | 視覚障害教育課程・指導法 (R6認定講習) | 視覚障害のある幼児、児童又は生徒の心身の特性と、発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。具体的には、視覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について整理し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計についても学ぶ。 |
| 3 | 聴覚障害心理・生理学論 (R6認定講習) | 聴覚障害児教育において必要な心理・生理・病理学に関する基礎知識を習得することを目標とする。具体的には、外耳・中耳・内耳・中枢聴覚路などの聴覚器官の構造と機能、聴覚障害の原因となる疾患と特徴、純音聴覚検査や語音聴覚検査などの聴力評価、補聴器・人工内耳などの聴覚補償機器を用いた聴覚活用、聴覚障害児・者の発声発音の特徴とアセスメント、聴覚障害児・者の認知機能および心理的特徴、学齢期における障害認識、軽・中等度難聴児や片側難聴児など通常学校に在籍する聴覚障害児への支援について講義する。 |
| 4 | 肢体不自由心理・生理学論及び肢体不自由教育課程・指導法 (R6認定講習) | 肢体不自由の概念、肢体不自由のある子どもの病理面・心理面・生理面の特徴とそれらの相互作用、子ども一人一人の肢体不自由の状態や発達特性把握の必要性、家庭や医療との連携のあり方を理解する。特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の意義、子ども一人一人の肢体不自由の状態や発達特性を記す個別の指導計画の作成・活用方法、個別の指導計画やこれまでの教育実践を踏まえた教育課程編成の方法と、評価に基づくカリキュラム・マネジメントの考え方（授業づくりのPDCA）を理解する。また、各教科等における子ども一人一人への配慮事項を理解し、自立活動と関連付けた授業設計を行う方法を身に付ける。併せてした不自由児の卒業後を見すえた指導・支援についての理解を深める。 |
| 5 | 病弱心理・生理学論及び病弱教育課程・指導法 (R6認定講習) | 病弱（身体虚弱を含む）の幼児児童生徒の病弱等に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、一人一人の病弱や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、関係機関との連携について理解する。また、特別支援学校（病弱）の教育において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。さらに、病弱や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 |
| 6 | 発達障害及び重複障害教育課程・指導法 (R6認定講習) | 発達障害や重複障害等のある幼児児童生徒の心理面や生理面の特徴並びに相互作用並びに二次的な障害について理解し、一人一人の状態及び感覚や認知特性等を理解し、家庭や関係機関との連携について理解する。また、発達障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 |